



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

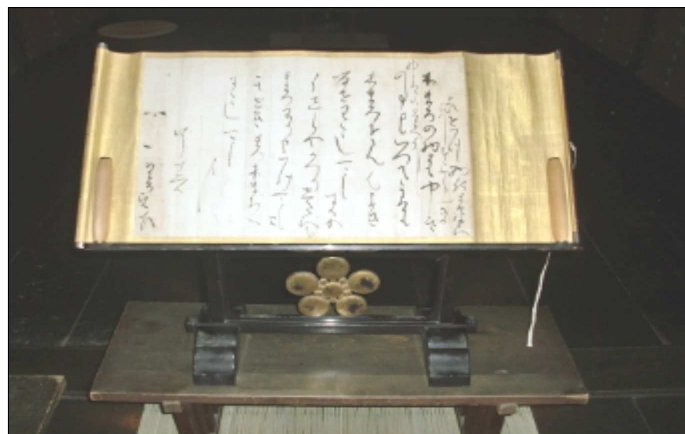
編集責任者：般若慎一郎

富山大学芸文学部の武山教授が中心になって昨年発刊された「都萬麻（つまま）01」に続いて「都萬麻02」が3月末に発刊されたことを知り、早速読んでみました。高橋市長の「文化創造都市」推進に関する発言を最近頻繁に新聞で見かけたりしますが、都萬麻プロジェクトは高岡芸術文化都市構想であり、まさしく市長が考えていることと一致します。歴史と工芸の都市高岡の文化が未来に向かってどのように発展していくのか、とても楽しみです。

前田利長公400年祭



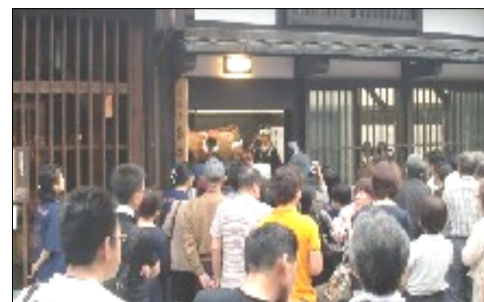
今年の6月20日は利長公の400回忌命日。御印祭の行事を早めに切り上げ、19時より有磯神社にて高岡市長をはじめ铸物業界関係者らを招き、400年祭を行ないました。加賀藩祖前田利家を祀る金沢市の尾山神社から宮司さんと巫女さんに来てもらい、神楽「浦安の舞」を奉納しました。



また、木町神社に伝わる多くの古文書の中から利長公直筆書状が、特別に公開されました。ちなみに有磯神社の宮司さんは木町神社の宮司も兼任しています。

盛大に御印祭

今年も御印祭当日午前中は雨が降りしきり、踊りは中止になりそうな天候でしたが、夕方にかけて回復し、3年ぶりに緑地公園に設置した舞台も使って盛大に踊り流しました。



なお子供たちの御印太鼓は雨が降っても太鼓が濡れないように、铸物資料館第

3展示室内で行ないました。

祇園祭200年祭 有磯正八幡宮

祇園祭（ぎおんまつり）は日本の三大祭の一つに挙げられ、毎年7月1日から31日までの1カ月間、京都市内の中心部や八坂神社で行われる。クライマックスとなる山鉾巡行と神幸祭（いずれも17日）をはじめ、多彩な祭事が繰り広げられる。

平安時代前期に京で疫病が流行した際、広大な庭園だった中京区の神泉苑に、当時の国の数にちなんで66本の鉾を立て、祇園の神（スサノ

オノミコトら)を迎えて災厄が取り除かれるよう祈ったことが始まりとされ、1100年以上の歴史がある。

祇園祭はもともと京都八坂神社の祭りなのですが、スサノオノミコト繋がりや疫病退散の祭りとして全国各地で行なわれているそうです。

有磯神社でもスサノオノミコトを祀っており、200年前の文化10年(1813)から毎年6月15日に横田地区の行事として祭典を行なっていて、200年を記念して京都八坂神社がある祇園の先斗町(ぼんとちょう)から芸妓・舞妓合わせて4名を招き、踊りを奉納したものです。



富山県内では氷見市の祇園祭が有名ですね。

氷見市の場合7月13～15日にかけて、神事の他に神輿渡御、曳山巡行、太鼓台(たいこんだい)曳き回しなどが行なわれていますが、起源は1700年ごろ(複数の説がある)だそうです。なお6月と7月の違いは、旧暦の6月を新暦に読み替えているかどうかの違いです。

因みに祇園という言葉は、釈迦が説法をしていたインドの寺院「祇園精舎」から来ているようです。

富山・生と死を考える会 25周年記念特別事業

生と死を考える会全国協議会2013全国大会

6月22日(土)午後1時、約1700名が見守る中を講師の日野原重明先生(聖路加病院理事長・名誉院長)が登壇されました。両手を大きく上げ、大きく広げて、広い高岡市民会館が一瞬すごいオーラに包まれました。そしてマイクを持ち、立ったまま約1時間余話されたのです。少し右へ首を傾けた独特の姿勢で、艶のある大きな声、一つ一つの言葉が軽やかに、しかし一言一言大変含蓄のある金言の数々、もうすぐ102歳になろうという方が。



ゴッホの名画「星月夜」に例えて、闇が深ければ深いほど星は強く輝く、悩めば悩むほど人間は生きる明かりを見つける。人は願望の中に生きるのではなく、希望の中に生きたい。なぜならそこに幸福があるから。

先生にとって100歳はゴールでなく、人生の通過点であり、10年先に目標を持っている。つまり109歳まで書き込めるスケジュール帳を使っている。心は老化させない、心の老いを“実り”にするには感動することである。創(はじめ)めることで脳を若く保つのです。

98歳で俳句を始め、100歳でストレッチ運動・ゴルフに挑戦、101歳でフェイスブックを始める。新しい事に常に前向きに挑戦する! さあ～シニアのみなさん、前へGO!GO!GO!

全く驚異の連続でしたが、大きなパワーをもらいました。(般若陽子 記)

金屋町の団体長が一部交代しています

以下は新役員です。

金屋町公民館館長 棚田義宏、金屋町消雪組合組合長 新保公章、金屋緑地公園愛護協力会会長 加藤昌宏、ポケットパーク愛護協力会会長 野坂仁明

納涼祭は8月24日

恒例の納涼祭は上記の日に、今年も宮川町の八番街で実施される見込みです。八番街には子供が多いことと通行止めがしやすいことが、場所選びの決め手になっています。

なお例年ならこの時期に行なわれていた住民運動会は、猛暑を避けて秋に実施される予定です。

四季防災館見学会は8月11日

5月号において、金屋町が防火・防災マイタウンに指定されたことをお伝えしましたが、活動の一環として主題の研修会が8月11日午前に予定されています。バスでの送迎つきですので、こぞって参加してください。